

# 中野区教育委員会会議録

令和4年第7回定例会

令和4年3月4日

中野区教育委員会

令和4年第7回中野区教育委員会定例会

○日時

令和4年3月4日（金曜日）

開会 午前10時00分

閉会 午前10時50分

○場所

中野区役所5階 教育委員会室

○出席委員

教育委員会教育長 入野 貴美子

教育委員会委員 伊藤 亜矢子

教育委員会委員 岡本 淳之

教育委員会委員 村杉 寛子

教育委員会委員 田中 英一

○出席職員

教育委員会事務局次長 青山 敬一郎

参事（子ども家庭支援担当） 小田 史子

子ども・教育政策課長、学校再編・地域連携担当課長

濱口 求

指導室長 齊藤 光司

学校教育課長 松原 弘宜

○書記

教育委員会係長 香月 俊介

教育委員会係 伊藤 芽依

○会議録署名委員

教育委員会教育長 入野 貴美子

教育委員会委員 伊藤 亜矢子

○傍聴者数

6人

○議事日程

1 報告事項

(1) 教育長及び委員活動報告

① 2月22日 「学校教育向上事業」研究指定校研究発表会（中野中学校）

(2) 事務局報告

① 令和3年度体力テストの結果と体力向上に向けた取組について（指導室）

## ○議事経過

午前 10 時 00 分開会

入野教育長

それでは定足数に達しましたので、教育委員会第 7 回定例会を開会いたします。

議事に入ります。

本日の会議録署名委員は伊藤委員をお願いいたします。

本日の議事は、お手元に配付の議事日程のとおりでございます。

日程に入ります。

### <教育長及び委員活動報告>

入野教育長

報告事項に入ります。

初めに、教育長及び委員活動報告をいたします。

事務局からご報告願います。

子ども・教育政策課長

2 月 22 日火曜日、中野中学校における「学校教育向上事業」研究指定校研究発表会へ入野教育長が出席されました。

以上でございます。

入野教育長

各委員からその他活動報告がございましたらお願いいたします。

岡本委員

直接の活動というわけではないのですが、お伺いしたいなと思ったことがあったので発言させていただきます。

1 月末に文部科学省から教師不足に関する実態調査の結果が公表されて、話題になっていました。令和 3 年、去年の 5 月 1 日時点で、東京都は小中学校の不足人数、不足学校数、ともに 0 だったのですね。ほかの自治体も 0 というところ、あったのですが、ただ、現実には年度の途中で不足している実態もあるのではないかなと思っています。

昨年度、5 月 1 日以降で、中野区内の小中学校で教師不足の学校があったのかどうか、教えていただけますか。

指導室長

本区でも、今年度の始業日、そして 5 月の 2 回、回答のほうは行っています。その時点で

は0であったのですが、やはり産休・育休代替の教員または講師がなかなか見つからないというような状況が、本区内でもございました。

現状確認したところ、小学校1校で産休・育休代替の教員が見つからないという状況が、現在あるという状況でございます。

岡本委員

現時点でということなのですか。わかりました。

いろんな要因があって、多分、講師の先生がいらっしゃらないと、そもそも講師でいいのかという問題もあるとは思いますが、学校や教育委員会としても、草の根から、「学校って幸せの場所なんだよ」という、「先生も子どもも幸せに過ごせるんだよ」みたいなメッセージも発していくことで、ちょっとでも先生のなり手を増やすという努力も、草の根レベルから必要なのかなと個人的には思っています。とりあえずその共有をさせてください。

以上です。

入野教育長

それ以降については、今どのような状況になっているのですか。

指導室長

それ以降につきましては、算数少人数を担当している教員がクラスに入りまして、現在指導を行っております。

ですから、代替の教員が見つかるまでの間は、算数については各クラスで実施をしているという状況でございます。

村杉委員

HPVワクチンのことについて、少しお話しさせていただきます。

先日も医師会で、HPVワクチンの講演会もありましたが、2013年6月から、接種後の疼痛などで、積極的な勧奨の差し控えがされてきましたが、この4月から積極的な勧奨を再開することになっております。

3月に高校3年生の学年対象で配布がもう始まっていることと、4月からはそれ以外の中1、中2、中3の学年でしょうか。配布される予定で、まずは医師とよく相談して、よく理解してから接種していただくこと。そして副反応が起こった場合には、接種をされた医師に早めに相談されること。そして中野区では、東京警察病院の部長の宇田川先生が、思春期の相談ですとか心身症のご専門なので、宇田川先生が何かありましたら東京警察病院に

ということで、ご相談を受けてくださること。そして先日の講演会では、東京警察病院の非常勤の先生で奥山伸彦先生という、HPVワクチンの接種後の多様な症状について大変造詣の深い先生が、週1回今非常勤でいらしております。その先生が講演なさってくださいましたが、何かありましたらどうぞご相談くださいということで、中野区でも接種後の相談体制がされております。

そして、どうしてもペインのほうでさらにとということであれば、都内の五つの大学病院で受け入れ態勢に、ペインクリニックなのですが、なっておりますので、そういう体制を通して、今後、順調に接種が進んでいくことを願っております。

以上です。

入野教育長

他にご発言ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、私からのほうから、中野中学校のことでご報告申し上げます。

中野中学校は、中野区立中学校の合理的配慮のスタンダードの確立ということを研究テーマに、中野区の中学校では唯一巡回指導の拠点校ですので、特別支援教室のほうの先生方を中心に研究発表をなさいました。中野区の小学校は平成28年度から、それから中学校では今年度から全校に特別支援教室を配置いたしまして、全校での巡回指導が開始されたという状況の中での発表でございました。

今度の4月から、巡回指導の拠点校が中野東中学校にも増えまして、中学校も2校になります。それで特別支援教室の環境自体は、中野区としては一定整ったという状況になりますので、そこでの子どもたちの指導の仕方ですとか、各学校の中学校の特別支援教室の特徴ですとかを発表しながらの報告でございました。ユニバーサルデザインということについてを中心になさって、その視点に立った環境をどう整えるかということが中心だったかなと思っております。

平成19年に特別支援教育が位置づけられてから、ユニバーサルデザインの授業づくりとか学級づくりというのは、本区においても重要性を言われてきておりましたけれども、新たな特別支援教室を担当するほうから見たということでの、そういう実践に裏づけられた発達障害の子どもたちにはないと困る支援を発信してもらいまして、全ての学級で、在籍学級で学習につまずきがちな子どもたちを含めて、どの子にもあるという、便利だという視点の実践を提供していただけたかなと思っております。

併せて、中野区が取り組んでおります保幼小中連携教育の重点の一つとしても、昨年か

ら特別支援教育が一つの視点になりまして、保幼小中で連携して考えていくということに取り組んでおりますので、今回の研究は特別支援教室と在籍学級、それから小学校と合わせますと、保幼小中、小学校と中学校の違いなく、全ての一人ひとりの子どもたちに応じた教育ができる出発点になったかなと思っております。

リモートでの発表でしたので、それぞれの学校がリモートでの参加という形になりましたし、講師の先生もリモートでという形でした。

講師の先生は、心理学部の小貫先生、明星大学の先生なのですけれども、改めて特別支援教育の歴史からまた振り返っていただきまして、いろいろな障害についても、改めてご指導いただいたという会でしたので、よかったかなと思っております。

担当する特別支援の先生方が中心になって、学校が発表するということが今までなかなかありませんでしたので、大変いい実践になったかなと思います。

ご報告終わります。

田中委員

今のご報告に質問なのですが、よろしいでしょうか。

この巡回指導の、今中学校の対象者というのは、区内でどれぐらいいるのでしょうか。

指導室長

年度がまた変わりますと、数に多少変動はございますが、現在中学校だけ、年度初めには70人ではあったのですが、若干増えてはいる状況です。ようやく今年度から全校で巡回指導が始まったということにより、特別支援教室を利用することで、より安心して学校に通えるですとか、自分の困り感が少しずつ週に1回、2時間程度の取り出しにはなるのですが、そこで子どもたちや保護者のほうも、成果というのを感じてくれているようなケースが多くなってきたので、そういう意味では、今後も子どもたちが抱えている困難さ等に合わせて、上手に活用していただくと、より子どもたちが持っている力を、自分の在籍学級で発揮できるような形になるかなとは思っています。先ほど教育長のほうからもありましたけれど、来年度からは2校になりますので、より指導内容のほうは充実させていきたいと考えているところでございます。

入野教育長

よろしいでしょうか。

それでは、ご発言がございませんので、委員活動報告を終了いたします。

<事務局報告>

入野教育長

続いて事務局報告に移ります。

事務局報告の1番目「令和3年度体力テストの結果と体力向上に向けた取組について」の報告をお願いいたします。

指導室長

それでは「令和3年度体力テストの結果と体力向上に向けた取組について」の資料をごらんください。

まず初めに、この体力テストですけれども、国と都と区でそれぞれ分析を行っております。国のほうは小学校5年生、それから中学校2年生を対象として調査を行っております。都のほうは小学校1年生から中学校3年生まで、全ての学年を対象としております。本区も同じく全学年の児童・生徒を対象としております。

ただし、このテストですけれども、各学校、年に1回行います。その結果を国や都のほうにも、各学校のほうから上げて、それぞれが分析を行っているという状況でございます。

本区としての分析でございますが、2007年に「中野スタンダード」というものを策定しました。これは当時の子どもたちの体力の状況をあらわしたものでございます。その後、毎年子どもたちの体力がどの程度向上しているのかですとか、その当時と比べて低下してしまっているような部分というのはどこなのかというのを、分析を行うことで、各学校の状況を把握すること、それから子どもたち一人ひとりの状況を把握するということを狙いとしています。

本区の特徴としましては、この個人の分析が、過去3年間分を経年で比較するというような取組を独自で行っておりますので、子どもたち一人ひとりが自分の課題ですとか、自分の頑張っている、周りの子と比べても伸びている力を把握することで、より運動に積極的に取り組むですとか、運動の日常化というところにつなげていけたらと考えて行っているものでございます。

では、資料のほうの趣旨ということで、4点挙げさせていただきました。

今、簡単には説明させていただきましたが、まず一つ目としましては、各小中学校において、結果から個人及び集団の体力水準や傾向を把握すること。また、その子どもたちの実態から、各学校ごとに体力向上プログラムというのを策定して、実施してもらっております。

2点目としましては、児童・生徒自身が、自分自身の体力の現状や課題を把握すること、そして自分に合った運動や運動遊びを楽しみながら、継続して行えるような実践力を育て



ることというのを狙いとしています。

3点目としましては、教育委員会が子どもたちの現状や、各学校が策定した体力向上プログラムの結果、そして課題等を明らかにして、今後の施策等に生かしていくというものでございます。

さらに4点目といたしましては、新型コロナウイルス感染症が体力に与えた影響等を検証し、新しい生活様式での体力向上のあり方を今後検討していきたいと考えているものでございます。

(2)調査の実施概要でございます。

対象の学年は、区立小・中学校の全児童・生徒となります。

実施種目ですが、小学校は8種目です。下に表記させていただきました。中学校は8から9種目となっておりますが、これは、中学校は20メートルシャトルランに替えて、持久走、男子は1,500メートル、女子は1,000メートルということで、こちらを実施することが可能なので、両方実施するといった学校もございますので、8から9という形になってございます。

実施の時期でございますが、令和3年の6月1日から6月30日までということで実施しました。令和2年につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、9月から10月にかけて実施してございます。

(3)でございます。調査結果の分析・活用についてですが、各小・中学校は、児童・生徒の体力水準や傾向を把握し、体力向上プログラムの改善に役立ててございます。教育委員会事務局としても、この調査結果をもとに体力向上のための施策に生かしていきたいと考えております。

今回の調査での変更点でございます。新型コロナウイルス感染症が体力に与えた影響を見るために、以下の点を新たに調べ、傾向を確認しました。これは1日の運動・スポーツ実施時間ということで、男女別に出してございます。

これ以外にも、実は直近の5年間の経年の比較ですとか、子どもたちの肥満度、また生活習慣なども、いろんな観点から検討はしたのですが、なかなか体力調査と直結するような比較というのが、直接的にはできなかったものですから、このあたりについても、今後検討していきたいと考えてございます。

2ページ、それから3ページをごらんください。こちらは先ほど説明させていただきました「中野スタンダード」との比較になります。

まず2ページですけれども、こちらは令和2年度・3年度のものをお示しさせていただきました。色がついている数値ですけれども、これは「中野スタンダード」に達した児童・生徒の割合が70%を超えた項目となります。ですから、この色がついているところにつきましては、ある程度「中野スタンダード」をクリアしていて、成果としても上がっているものと捉えていいかと思います。色がついていないところについては、70%以上の割合では超えていないということなので、このあたりが本区の課題と捉えられると考えています。

令和2年度と3年度を比較しますと、令和2年度については99項目、全体の66%、全部で150あるのですけれども、66%はクリアできていた。ただ今年度、令和3年度につきましては、92項目でのクリアということで、全体の61%という数値になってございます。

内容を見ていただきますと、反復横とび、50メートル走、それから持久走といったところが、男女ともに、全ての学年で「中野スタンダード」の通過率が目標値に達してございます。また上体起こし、長座体前屈、こちらは男女ともに目標値に達している学年が比較的多いというものでございます。

課題といたしましては、握力、ボール投げ、20メートルシャトルラン、こちらが「中野スタンダード」を通過する学年が少なく、これまでも課題としては出てきていたのですが、継続課題と捉えることができると考えております。

3ページのイのところをごらんください。こちらが全体の通過率、平成25年度のものから載せてございます。今年度61%という数字ではございましたが、経年比較で見ると、ここ数年は一定の水準である程度クリアできているというようなことが読み取れると考えます。

また3ページの下(2)のところでございますが、こちらは東京都の平均値との比較から示したものでございます。

昨年度と比べまして、上体起こしと20メートルシャトルランは、東京都の平均を上回った学年が多くなっているのは、これは4ページのほうと併せてごらんいただけたらと思います。

4ページのほうは、色がついている丸のものが、東京都の平均と比較しまして、1%を超えたものです。黒い三角が、逆に1%を超えて都の平均を下回ったものでございます。ほぼ変わらないというものが、ほぼイコールというような形で示してございます。

この結果を見ますと、上体起こしと20メートルシャトルランが都の平均を上回っている。握力については、小学生の女子が都の平均を下回っているということが読み取れるか

と思います。

3 ページのほうにお戻りいただきまして、過去6年間の推移をこちらには示してございます。令和3年度のところを見ますと、64項目で都の平均を1%以上超えているということ、また逆に31項目、20%で、都の平均を1%下回ってしまっているというところがございます。過去6年間と比較しましても、比較的、都の平均よりは上回っている傾向があるのかなというところが見て取れます。

続きまして、5 ページのほうをごらんください。こちらは1日の運動・スポーツ実施時間が1時間未満の児童・生徒の割合といったものでございます。黒い実線のほうが男子です。二重線になっているものが女子ということでございます。平成29年度から令和3年度までの比較でございます。

この結果を見ますと、現段階では運動時間が回復したかどうかという判断としては難しい状況であるとは思っております。来年度以降も、しっかりとこの傾向を見ていきたいと考えております。また中学校1年生、2年生の女子、中学校3年生の男子ですけれども、運動時間が1時間未満という割合が増加傾向にあることが読み取れます。

今後の方策です。6 ページをごらんください。6 ページの下の部分になります。アからエということでお示しをさせていただきました。

まず1点目でございますが、今回の結果を踏まえまして、各学校で結果をしっかりと分析を行い、それをもとにして授業改善に取り組んでいただきたいと考えております。また体育の授業だけではなく、各児童・生徒が自らの課題を把握し、日常生活でも進んで運動をすることができるような働きかけを行っていただきたいと考えています。

先日行った校長先生とのヒアリングの中でも、やはり体力向上については、なかなか新型コロナウイルス感染症の影響もありまして活動に制限があるというようなところで、各学校でも課題としては捉えていて、いろいろな工夫は行っているという状況ではございますが、ぜひこのあたりは今後も改善を図っていきたいと考えています。

2点目です。保幼小中連携の視点から、就学前教育・保育施設に対しましても、本結果を提供して、感染拡大予防にはしっかりと努めながらではありますが、各園においても幼児の体力向上に関わる課題を把握して、改善に努めていただきたいと思っております。また運動遊び事例集などを活用した取組を推進するすとか、家庭との連携などをしっかりと図りながら、就学前の幼児期における体を動かす体験なども充実していけるよう、働きかけていきたいと考えています。

来年度でございますが、新規で「スキルアップ研修（体育）」というものを実施する予定でおります。こちら、主には体育専科の専門性向上を図っていくことを狙いとしておりますけれども、夏の研修では小・中学校合同の研修会を行いまして、各学校の取組などを共有して、授業改善に生かしていただけたらと考えています。

最後4点目でございますが、今回の結果では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大と体力の関係性というのは、なかなか明らかにはできなかったというところがありますので、来年度以降も生活習慣の変化と体力との関係性については、しっかりと注視してまいりたいというふうに考えております。

続きまして、7ページでございます。体力向上プログラム改訂のポイントということで、各学校で策定しているこの体力向上プログラムでございますが、(1)から(6)までお示しをさせていただきました。

各学校の児童・生徒の実態に応じた目標の設定をしっかりとすること。また運動の日常化のための取組や環境の整備をしていただきたいと考えております。さらに基本的な生活習慣を確立するための取組、こちらが重要であると考えますので、食事や運動、休養及び睡眠など、調和のとれた生活の必要性について、子どもたちの発達段階に応じた指導を行う。また保護者等への啓発も行っていただきたいと考えています。

(4)から(6)につきましては、経年で課題となっております握力、投力、それから持久力というものを上げるための具体的な方策をお示しさせていただいております。

最後でございますが、具体的な各学校の取組例をお示しさせていただきました。小学校2校、中学校2校について、こちらにお示しさせていただきました。

まずA小学校でございますが、5月末から2週間のダンス週間というものを設定して、動画をG o o g l e C l a s s r o o mに上げて、事業や家庭でも活用できるような工夫をしていただいています。また投力や走力をメインに、出前授業で元プロ野球選手、また、陸上選手などを招聘しまして、子どもたちにも興味・関心を持ってもらいながら、体力向上への取組を行ってくださっています。

B小学校です。年間3回の体力向上月間を実施してくださっています。休み時間を中心に、50メートル走、長縄、マラソンなどを行ってくださっています。

C中学校におきましては、栄養士と連携した食育「ゴールデンしゃもじ賞の取組」というようなもの、これは配膳を早くし、食事の時間をしっかり確保するというものです。こんな工夫も取り入れていただいています。

D中学校です。こちらも授業開始後に400メートルを走って、持久力を高めるような取組を行っていただいていると。また子どもたち同士でバディを組みまして、お互いが声をかけ合ったりすることで、意欲を高めるといった取組を行っております。

説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

入野教育長

ただいまの報告につきまして、ご発言がありましたらお願いいたします。

田中委員

詳細な分析と報告ありがとうございました。

聞きたいのですけれど、体力というのが、自分のこれから生涯の健康に暮らしていく上に必要だということ、子どもたちにしっかり理解してもらうことというのはとても大切だと思うのですが、このテストをするに当たって、そういったことをどのくらい児童・生徒たちに伝えて、テストの目的というのでしょうか。そういったことをきちんと伝えているのかという点が一つ。

それから、ここの趣旨のところにも、今後の課題にもありましたけれども、生徒自身が自分の課題と目標を設定してということがありましたけれども、その辺を学校全体としては、例えば自分の中学校はこれぐらいだということは、多分いろんな形で報告していると思うのですが、一人ひとりの子どもたちにどんなふうに自分の位置というのでしょうか、伝えているのかということと、もう1点だけ、保護者にはどんなふうにこのことを伝えているのかと、その辺を教えていただければと思います。

指導室長

調査をする前は、各学校の先生方がどういう調査をするかということ、毎年行っているので、ある程度内容は子どもたちもわかっていると思うのですが、先ほどもお伝えさせていただいたように、経年で子どもたちには結果を返していますので、昨年の自分の成績を目標にして、それを上回っていこうという声かけなどもしているような学校もあると思いますし、着実に子どもたちも毎年成長しているので、成果としては当然上がっていくかと思っておりますので、そういう声かけはしてくださっていると思っています。

プラス日常的に体力ということは、いろいろなことに取り組む上でも、非常に必要なファクターであると思っていますので、学力というと、どうしてもテストの勉強で、何点とれたかというところだけみたいな形で伝わってしまいますけれども、しっかりと体力があることで集中力が持続するのですとか、粘り強くいろんな課題にも取り組めるということがある

と思いますので、そういうことも併せて、子どもたちのほうには指導していただきたいと思います。

それから2点目で、子どもたちが課題をどう捉えるかという点でございますが、こちらは保護者に対しての啓発ということも併せてですけれども、かなり詳細な個票を、子どもたちには配布しております。学校によっては夏の面談のときに、間に合えばというところもあるのですけれども、それをもとにして面談等を行いながら、去年よりも比べてこういう点が伸びているですとか、課題があるような点については、かなり具体的なアドバイスなんかもありますので、「日常生活の中でもこういうことを意識することで、持久力が伸びる」ですとか、アドバイスが書かれているものがございますので、ただ個票を渡すだけではなくて、それをもとにして面談をしたりすることによって、子どもたち自身が自分の課題を把握する。また家庭との連携ということも、非常に重要になってくると思いますので、保護者のほうにもそれを見ていただく、読んでいただくことによって、家庭でもできるような取組を通して、運動好きな子どもだったり、運動の日常化というところに少しずつ近づけていけたらと考えております。

田中委員

「中野スタンダード」に到達したらいいというよりも、むしろ先ほど指導室長が話されたように、前よりも自分なりに努力して上がるという、その部分がすごく大事な気がするので、そういったことも含めて、ぜひ丁寧な指導で、この結果を生かしていただければと思います。

以上です。

伊藤委員

グラフなども工夫していただいて、すばらしい資料を本当にありがとうございます。例えば、改めて5ページの1日の運動の時間が1時間未満の児童・生徒の割合を拝見しますと、やはり令和2年、令和3年は、その割合が増えているところも見受けられまして、部活動が中止になったことですとか、外出ができないということが、こうやってじわじわと子どもたちにも影響していくことがわかるなと思いました。

ですので、先ほどGoogle Classroomでダンス週間を行ったというお話もありましたけれど、例えばストレッチウィークとかでもいいし、これまでの外で外遊びとか、外で部活動をとということだけではなくて、もちろんそれも保障してあげたいですし、その上で、そういうことができなくなったときにも、隙間時間とかにおうちの中でできる工

夫というのを、積極的に発信していただきたいなというのがございます。

それから、田中委員も丁寧な指導ということを言われたのですが、スポーツといいますと、従来から何か比較して競技力の高さを競うということになりがちなのですが、長い人生の中で自分の健康と向き合うということが大事だと思うので、例えばクラス単位でも、自分の学校で握力が低いだけでなく、握力がないとどんなことが困るのだろうか、みんなで握力を高めるためには、自分たちに何ができるのだろうか、そういうことをまず、どういうふうを考えていくかということ、丁寧にクラスの中でやっていくということがないと、データから読み取って、それを実際の現場に戻して、さらに対策を考えるというのは、大人でもかなり難しいことなので、これを見て考えなさいということよりは、握力がなくてどういうふう困るかな。困るけれど、どういうふうにしたら上がるかなというのを、素朴に1年生は1年生なり、6年生は6年生なり、中学生は中学生なりに考えて、みんなで実践してみるみたいな、みんなで健康チャレンジというアプリとか、はやっているみたいですが、そういうような自分の体や健康と向き合うということをしていただくと、すごく子どもたちの宝になるのではないかなと思うので、ぜひ機会をつくっていただけたらと思いました。

以上です。

岡本委員

田中委員、伊藤委員と関連するお話になるのですが、本来は子どもに求めたい運動能力というのがまずあって、それをどうはかるかという議論になると思うのですね。調査項目ありきなものは、都や国と連動されているということで、仕方ないところはあると思うのですが、これらの調査項目ありきで、この調査項目の点数をいかに上げるかという話ではなく、まず今の中野区の子どもたちにどんな運動能力や運動習慣が必要なのかというのを検討して、それを伸ばすためにどんな運動が必要なのかというのを、今スポーツ科学等いろんな専門家の方いらっしゃると思うので、そういう方とも協力をして、開発をしていって、子どもたちが自分事として取り組んでいけるようなというプロセスが必要なのかなと考えました。

田中委員がおっしゃったみたいに、子どもたちが生涯にわたって運動に親しめる基礎をつくっていくことが目的だと思いますので、そこに向けてどうしていくかという視点から考えたいなと思いました。

これは質問なのですが、このテスト、テストとおっしゃっているのですが、

この正式名称は何という調査、テストなのでしょう。

指導室長

正式名称は「新体力テスト」という名前になってございます。

入野教育長

「新体力テスト」というのは、どこの正式名称なのですか。

指導室長

分析している業者のほうでも出してくれているのですけれども、文部科学省のほうの。

入野教育長

このやり方自体を「新体力テスト」というのではないのですかね。

ちょっと時間をおきますか。それにもよりますよね。

岡本委員

それにもよるのですけれども、スポーツ庁が公表しているのは「体力・運動能力調査」と言っているのですね。通称は何かテストと、もしかしたら言っているかもしれないのですけれど、「テスト」と言われると、子どもにとっては点数をつけられるもの、合否を決められるものという受け止めになってしまわないかなというのが気になりました。

先ほど来からの、子どもにこの調査の意義をという話と関係すると思うのですけれども、子どもが自分の状態を見つめ直して取り組んでいけるというようにするためには、テストではないほうがいいのかなどとも思いましたので、今後何かを検討されるようでしたら、名称も併せてご検討いただければなと思った次第です。

伊藤委員

今のことと関連してなので、名称もそうなのですけれど、むしろ算数とか国語とかも同じで、評価とかテストという、トライアルですよね。それを、どう生かしていくかということの理解を、抜本的に考える必要性ということを、岡本委員は言われているのかなと思って、算数とか、そういうテストも、ただ評価というか、最終的な評価という話ではなくて、最終的な入学試験のような評価ということではなくて、それをもとにして、自分たちの学びを考えていく形成的評価、たしか前回教育長のほうからも、そういった趣旨でのご講演が中野の中であったというお話があったと思いますけれども、そこから考えていくというものだということについて、学校現場での認識というのを深めていただいて、言葉はどうあれ、自分のことを理解する。自己理解と次への方策を考えるものなのだよという、そういう考え方をきちんと示していただくということが、背景には重要なことと



してあるのではないかなと思いました。

以上です。

村杉委員

詳細な検討ありがとうございました。2020年、令和2年の恐らく前半、4月から夏休みくらいまで、子どもたちはなかなか学校に来られなかったと思います。その後にされた令和2年の体力テストと今年度と比べて、さほど影響がないと言いますか、この短期ではそれほど影響がなかったのかなと、私もこれを拝見して思いました。

これからまだまだ家庭でも、なかなか制限が続く日々が続くと思いますが、学校の中で、休み時間に体を動かして遊ぶ機会や、運動が増える機会がありますと、とても有意義なことだと思います。ひいては生活習慣病の予防にもつながっていくことだと思いますので、学校での運動は大切なことだと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。

入野教育長

他にご発言ございますでしょうか。

指導室長

先ほどの、この調査の名称ということでございますが、国のほうは「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」というような形で、冊子では来ておりますが、その中で「新体力テスト」の実施状況という形で、国のほうも呼んでいるところでございます。

また東京都のほうで、データとしてはもちろん同じなのですが「東京都統一体力テスト」という名前では呼んでいるところのようなので、この「テスト」というところは、私たちも検討はしていきたいと思っております。

入野教育長

恐らく、この項目をやること自体が「新体力テスト」であり、体力テストなのだと思うのですよね。ですので、私たちのほうとしては、スタンダードも置いての分析になるので、もうちょっと意図をあらわした名称にする必要は出てくるかなと、名称においてはですね。先ほど来お話ししていただいている、狙いをきっちり入れたものにしていく必要はあるかなとは思っています。ありがとうございました。

岡本委員

ありがとうございました。多分関係する話になってくると思うのですがけれども、子どものやる気がそもそもなかったら、数値は簡単に落ちてしまいますよね。運動能力調査って、特に小学生はまだ頑張れるかもしれないけれど、中学生になったらはすに構えたりという

のも、現実的にある問題なのだと思うのです。

その理由の一つは、恥ずかしいとかもありますけれど、人と比較されるのは嫌というのがありますよね。苦手なものを人前でやらされて、遅いとか回数が少ないとか、それは誰だって恥ずかしいので、さっきの話からもあるように、他人と比較するためではなくて、自分の成長のために必要なものなのだということが、切実に必要なのだと思いました。

そういう授業の工夫はもちろんなのですが、もっと言うと、クラスの雰囲気づくり、人間関係づくりから始まってくる話なのかなとも思いました。

運動の日常化ということもあったと思うのですが、これもよく言われるのですが、子どもは地域で目いっぱい遊べる環境でないと、学校の中で幾ら頑張っても限界はあると思うのですよね。その意味では、グラウンドや公園で子どもはうるさいと言われてしまうと、厳しいところはあると思うので、学校だけ、教育委員会だけではなくて、区全体でもっと広報的なことはできるといいのかなとも思いました。

以上です。

入野教育長

ありがとうございます。他にご発言ございますでしょうか。

例年とまた違った観点での分析もしておりますし、恐らくこれが学校にいきますと、保健体育の授業等でしっかりと活用していただいている事例もあると思います。根本は、中野区は子どもたちが自分の状況をよく知ることから始まるのではないかなということと取り組んでおりますので、その辺をさらに吟味して、今後の分析と、それから実施に当たっていただければと思います。

それでは、ご発言ございませんので、本報告は終了いたします。

それでは最後に、事務局から次回開催について報告願います。

子ども・教育政策課長

次回は3月11日金曜日10時から、当教育委員会室にて開催いたします。

以上でございます。

入野教育長

以上で本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして教育委員会第7回定例会を閉じます。

ありがとうございました。

午前10時50分閉会